

第五回 荒川区区政改革懇談会

グループ討議会議録：萌黄

【日時】

11月8日(水) 10:00～12:00

【場所】

荒川区役所 議員待遇者室

【次第】

ステップ1：はじめに

ステップ2：中間発表会について確認し合おう

ステップ3：重点問題を解決するための対応策を話し合おう

ステップ4：対応策の役割について

ステップ5：その他

ステップ1：はじめに

コンサルタントより、中間発表会と前回までの議論についての確認がなされた。また、11月23日に行われる中間発表会の出欠席者の確認がなされた。

ステップ2：中間発表会について確認し合おう

事前に郵送された中間発表資料(案)に関して、追加・訂正があったら、発表してもらい、話し合う事にした。

【表紙について】

特に追加・訂正はなし

【中間発表資料(案) 1. 荒川区の現状について】

- ・ 荒川区のイメージの良い点に記載してある「都心に隣接し、利便性が高い」は「都心に隣接し、利用できる交通機関が多く、利便性が高い」に訂正した方が、わかりやすい。
- ・ 荒川区のイメージの悪い点に記載してある「23区内で区のイメージは悪い」は具体性に欠けると思う。「国立・都立の施設や大手百貨店等の施設がない等、他区に比べて劣っている」を付け加えてみてはどうか。
- ・ 災害対策の良い点に記載してある「町会にレスキュー隊が組織されている」は、全町会で実施されている訳ではないので、「町会によっては、レスキュー隊が組織されている」に訂正した方が良い。
- ・ 荒川区は防犯訓練が盛んなので、災害対策の良い点の項目に、「毎年、町会や区内全域(連合)で防災訓練が行われている」も付け加えてほしい。
- ・ 再開発は日暮里駅周辺だけではないので、荒川区のイメージの良い点に記載してある「日暮里駅周辺の再開発が進められている」は「日暮里駅周辺及び南千住駅周辺、汐入地区の再開発

が進められている」に訂正した方が良い。

- ・ 荒川区のイメージの提案に記載してある「都電荒川線を観光に結びつけ、区のイメージアップを図る」では具体性に欠けるので、「都電荒川線を観光に結びつけ、日暮里繊維街のイメージアップを図る」に訂正した方が良い。
- ・ (放置)自転車対策の良い点の項目に、「区が自転車免許証を発行している」を付け加えてみたらどうか。
- ・ (放置)自転車対策の提案の項目に記載してある「自転車の乗り方等マナーを高める教室を開催する」は、現在開催されているので、「自転車の乗り方等マナーを高める教室を PR する」に訂正した方が良い。
- ・ 区政全般の良い点の項目に、「区の時報の時の荒川区のイメージソング(あらかわ～そして未来へ)を流す事は良い」を付け加えてみてはどうか。

【中間発表資料(案) 2. 荒川区の目指すべき将来像について】

- ・ 提案に記載してある「全体的な観点から観光客を誘致」はわかりづらい。「まちづくりの観点から観光客を誘致」の方がわかりやすいのではないかと。
- ・ 提案に記載してある「ゴミが目に入らないように集積から収集」はわかりづらいので、削除した方が良い。

【中間発表会当日について】

コンサルタントより、当日の発表は、10分以内で簡潔に説明する事をお願いした。また、発表者は一人だが、中間発表会第二部の質疑応答は、委員全員で対応する事を確認した。

ステップ3：重点問題を解決するための対応策を話し合おう

前回までの話し合いで、萌黄グループの重点問題は、荒川区の防災対策という事になった。今回は、災害時の様々な対象者を想定して、さらに話し合いを深めた。

- ・ おおまかに考えると、地元に住んでいる人が対象になる。地元住民の生活状況から様々な対象に分かれると思う。
- ・ 一人暮らしの体が不自由な方は大変である。表に出て、危険にさらされるより、家にいた方が安全な場合がある。
- ・ 区内在勤者の方達は、災害時に力になるのではないかと。
- ・ 40年程前の三河島の列車事故は大惨事だった。列車に乗っていた人だけではなく、周りにいた人たちを巻き込んで、二次・三次災害がひどかった。
- ・ 医療施設・福祉施設(特養など)にいる人の災害対策は必要だと思う。
- ・ 古い医療施設等の建物は、耐震構造になってないと報道されていた。
- ・ 自分の息子は勤務先がつくばなので、災害時の帰宅ルートを平日頃考えているようだ。
- ・ 荒川区は交通機関が恵まれているので、災害時に電車やバスに乗車している人も対象になると思う。

- ・ 荒川区と各施設(公共・医療・福祉等)や各機関(警察・消防・行政等)の連携は必要である。
- ・ 災害時の物資供給の対象は、町会単位なのか、直接、配給場所に来た人なのか知りたい。
- ・ 区の防災担当者は、医療機関・福祉施設にいらっしゃる人の人数や会社の従業員数、学生の人数を把握する必要性がある。
- ・ 区の防災センターを、もっと有効活用できるようにすれば良いと思う。
- ・ 会社の防災責任者が人数を把握し、区の防災センターに報告するような制度を作った方が良い。
- ・ 防災6か条づくりをして、普及した方が良い。(委員からの提案:防災6か条 いざという時の火の始末 いざという時の逃げ道の確保 いざという時の非常袋の準備 いざという時の家族が離れ離れになった時の話し合い いざという時の一時避難場所・広域避難場所を確認 いざという時の住まいの防災点検)
- ・ 自分自身の安全を確保してから、次の行動に移した方が良い。
- ・ 防災無線をフル活用して、常に正しい情報を流すようにしてほしい。
- ・ 現在の防災無線は聞きづらい。どこにいても、聞きやすい防災無線に変えてほしい。
- ・ 防災無線が聞きづらい原因の究明をしてほしい。
- ・ 正しい情報が入れば、自分自身を守る事ができるし、他の人を助けに行く事もできる。
- ・ そこにいけば、すべての情報がわかるような場所があれば良い。
- ・ 防災無線以外の方法に関して、他地域で参考にできるものがあれば、防災無線以外の方法を取り入れても良いのではないかな。
- ・ 荒川区のケーブルテレビは、災害時に活用できるのではないかな。
- ・ まちの通り等に、緊急事態を知らせるベルのようなものがあれば、何か起こった事がわかると思う。
- ・ 区の防災センターで、災害対策の勉強ができるようにしてほしい。
- ・ 実際に災害を体感できる訓練に参加したが、煙の怖さを実感した。
- ・ 給水場所を把握し、その場所まで行くのが大変だと思う。
- ・ 常日頃から、浴槽等に水は貯めておいた方が良い。
- ・ 皆が正確な災害状況の情報を共有しているという事が、安心につながる。
- ・ それぞれの意識を高めて、防災のための準備しておく事が大切である。
- ・ 報道されているニューオリンズの水害を見ていると、災害時にはボランティアの力が必要だと実感した。
- ・ アメリカでは、ボランティア活動は当然の事として考えられているが、日本の場合はそうではない。
- ・ 自分の身は自分で守るという意識を高め、常日頃から準備をしておく事が大切である。その上で社会的弱者を守る事が出来る。
- ・ 学校でも防犯意識を高めるような教育をしてほしい。
- ・ 防災訓練プラス怖さを体感できる訓練をするのも意識向上につながる。
- ・ 小さい頃から、防災意識を持たせるのは大切である。
- ・ 常日頃から、子どもと離れている時の防災対策を考えた方が良い。

- ・ 災害時の石垣やブロック塀の危険性はどうか。
- ・ 防災マップは、荒川区全域ではなく区域別のマップならわかりやすい。

ステップ4：対応策の役割について

コンサルタントから、今後施策や事業の提案の機会があったら、行政に頼るばかりではなく区民の役割を理解して実践してほしいとの話があった。

ステップ5：その他

【次回について】

11月23日の中間発表会の時に委員の方から今後の進め方の案を出してもらった。

次回日程は、11月23日(水) 13:30より。